

情報公開文書

研究の名称	脳卒中後片麻痺患者の上肢機能回復の予測に寄与する因子の検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	リハビリテーション科・服部憲明
研究の概要	<p>【研究対象者】 平成29年12月から令和3年6月までに富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの回復期リハ病棟に入院し、かつ退院した初発の片側脳梗塞患者さんのうち、入退院時に upper extremity Fugl-Meyer Assessment score (FM-UE) を評価していた方。</p> <p>【研究の目的・意義】 脳卒中後の上肢機能の予後予測は、治療目標の設定や治療法の選択、適切な退院方針を決定するために重要です。本研究は、上肢機能の予後予測モデルの亜急性期での精度の検証を行い、またモデルにフィットしない患者さんの特徴を示すことで予測精度の向上に重要な要因を調査することを目的としています。本研究により、予測モデルの精度の向上が得られ、より効果的な上肢機能の改善のためのリハビリテーション治療を行うための貴重な情報が得られることが期待されます。</p> <p>【研究の方法】 本研究では、患者さんのカルテからデータを集積し、統計学的に解析を行います。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2026年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会や医学雑誌にて公表いたします。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	<p>【研究に用いる情報】 診断名、年齢、性別、入退院情報、臨床評価データ、CT・MRI データなどの診療情報</p> <p>【利用方法】 収集した情報は、解析する前に氏名・患者IDなどの個人情報を削り、新たな情報は、研究用識別番号を付け、匿名化された上で、下記共同研究機関において解析されます。 なお、匿名化されたデータは、将来のより発展的な研究の情報として活用される可能性があります。また、この研究の成果を発表する際に、オープンソース化される可能性があります。いずれの場合も、情報は個人を特定できない状態に匿名化して用いられます。本研究の情報を二次利用する場合は改めて倫理審査委員会に申請し、承認を得てから行うものとしします。</p>
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	<p>・研究代表者 富山大学附属病院 リハビリテーション科 教授 服部 憲明</p> <p>・共同研究機関 研究責任者</p>

	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター リハビリテーション療法部 成人療法課 作業療法科 長澤 圭祐
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター リハビリテーション療法部 成人療法課 作業療法科 長澤 圭祐
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 電話 076-438-2233 FAX 076-437-5390 E-mail ot3@toyama-reha.or.jp 担当者所属・氏名 リハビリテーション療法部 長澤 圭祐